

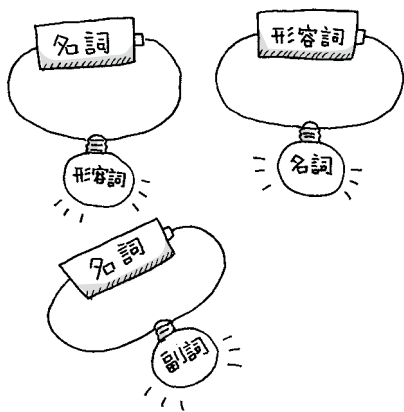
## 6-0 名詞から他品詞へ、他品詞から名詞へ

ある品詞がほかの品詞の働きをしたり、ほかの品詞になったりすることが、ときどき生じます。

たとえば、a baseball game (野球の試合)、a passenger liner (客船) などの baseball, passenger はそれぞれ後の game, liner を修飾しているので、一種の形容詞と考えることができます。また、alien や thoroughbred などのもと「外国の、よその」、「純血種の」という形容詞だったものが、「外国人」、「サラブレッド (純血種の馬)」と、名詞としても使われるようになりました。

逆もまた真なりです。たとえば、always, homewards といった語は昔はまったくの名詞だったものですが、それらは現在では副詞としてしか使われていません。こうした例は枚挙にいとまがありません。

ここでは、こうした他品詞への転換、すなわち名詞が他の品詞として使われる用法、他品詞が名詞化して名詞として使われる用法を検討していきます。



## 6-1 形容詞的に使われる名詞

形容詞には、a red flower (赤い花) のように名詞について限定的に修飾したり (限定用法)、This flower is red. (この花は赤い) のように補語として名詞の状況や性質を述べる用法 (叙述用法) があります。名詞にも同じように、形容詞的に使われる用法があります。基本的には修飾する名詞の前に置きますが、名詞の後に置く例もあります。ここでは名詞のこうした形容詞的用法について調べていくことにしましょう。

### 1 名詞A + 名詞B

〈名詞A + 名詞B〉の形で、名詞Bを修飾している名詞Aを、名詞とみるか形容詞とみるかについては文法家の間でも意見が分かれるところです。またその名称も種々あります。しかし名詞Aが名詞Bを修飾していることには変わりはありませんので、ここでは形容詞的に使われる名詞として検討していくことにします。

#### (I) 種類・材料などを表す名詞 + 被修飾名詞

〈名詞A + 名詞B〉の形において、名詞Aが名詞Bの種類・材料を表す場合があります。もちろん冠詞が付く場合は、純粋の形容詞同様、名詞Aの前に置かれます。

(1) How many kinds of paper money are issued in Japan?

「日本では何種類の紙幣が発行されていますか」

(2) Is there a grocery store around here?

「このあたりに食料雑貨店はありますか」

この用法は最もよく見かける用法の1つでしょう。次にいくつか例をあげておきましょう。

the speed limit 「速度制限」	an iron rod 「鉄の棒」
a deer hunter 「鹿猟師」	Sunday school 「日曜学校」
London Bridge 「ロンドン橋」	a book review 「書評」
a flower garden 「花園」	a race horse 「競走馬」

## (II) and や or によって結びつけられ、形容詞と並置される場合

【注】以下の例では斜字体が形容詞

- (1) She had several *intimate* and *bosom* friends.  
「彼女は数人の親しい友人がいた」
- (2) This is the *evening* and *weekly* paper that I take.  
「これは私が購読している夕刊の週刊紙である」
- (3) There were only some *lonely*, *stone* houses in the village.  
「その村には数軒の人気のない石造りの家しかなかった」

(1) と (2) では名詞と形容詞の順番が逆になっています。ときには (3) のように接続詞を用いない場合もあります。以下に (1) ~ (3) の類例を列挙しておきましょう。(3') の例はいずれも形容詞と並置されているので形容詞という感じを与えています。

- (1) her *Christian* and *family* name 「彼女の姓名」  
*political* or *business* ingenuity 「政治上または事務上の創意」  
the *postal* and *telephone* services 「郵便電信制度」
- (2) the *London* and *American* publishers  
「ロンドンとアメリカの出版社」  
the *Amazon* and *tropical* rainforests  
「アマゾンおよび熱帯の雨林」

- (3') a *gentle*, *April* sky 「おだやかな四月の空」  
the *town young* ladies 「街の若いご婦人たち」  
an *evening radical* newspaper 「急進的な夕刊紙」

## (III) 名詞の代用の“one”と共に用いる場合

- (1) The house was a *four story one*.  
「その家は4階建てだった」
- (2) He is a gentleman, but evidently no *city one*.  
「彼は紳士ではあるが、都会の紳士でないのは明らかだ」

名詞の代用をする one は形容詞を伴って用いるのがふつうですので、上のような例は特に形容詞のような感じがします。

## (IV) 副詞によって修飾される場合

- (1) It was a *purely* family gathering.  
「それは純粹に家族的な集まりだった」
- (2) The schedule was cancelled on a *merely* business ground.  
「スケジュールは単に仕事上の理由で取りやめになった」

形容詞を修飾するのは基本的には副詞です。したがって、purely, merely という副詞で修飾されている family, business は限りなく形容詞に近いと感じられるでしょう。実際、business には名詞のほかに形容詞の地位を与えている辞書もあります。

また、次の (3) のように比較を表す more などで修飾される場合もあります。(3) の country は country music (カントリー音楽) という音楽の一分野を意味しています。

- (3) This song of his has a *more* country tone than the others.  
「彼のこの歌には他の歌よりもカントリー(音楽)っぽい調子がある」